

シリーズ 映像で見聞きする“巨匠の時代”(7)

伝説に聞く巨匠たち

ベートーヴェン ピアノ協奏曲第4番ト長調 作品58 ピアノ独奏 ウィルヘルム・
 バックハウス カール・ベーム指揮 ウィーン交響楽団
 ブラームス 交響曲第1番ハ短調 作品68 カール・ベーム指揮 ウィーン・フィル
 ハーモニー

クラシック音楽の歴史の中で、演奏という行為が最高潮に達したのは、1970年から1980年ころだったという、見解があります。

指揮者の世界では、カラヤンやバーンスタイン、またムラヴィンスキーなど、今から考えても、おなかの底からの深い感動を与えてくれたのは、やはりこの時代の音楽家たちであったように思います。

ドイツ、オーケストラ音楽の分野で、カラヤンと双璧をなし、人気を二分したとされるのが、カール・ベームでした。カラヤンがカッコよく颯爽として、音色や旋律線の美しさを追求したのに対し、ベームはまったく風采が上がりぬ指揮姿で、音楽も一見ぶっくら棒そのものでした。でも、音楽の本質だけを追求していくその迫力は、まことにすごいものでした。このことを、また日本の聴衆がよく理解して、演奏会が終わったあと、楽員たちが舞台から立ち去ってしまった後も、拍手の嵐は鳴りやまず、ベームがこれに答えて、いつまでも舞台上で片手をあげて挨拶していたものでした。

スタジオ録音ではなく、まさしく舞台上の実演で、燃えに燃えたカール・ベームの映像を、ぜひご覧ください。音楽を聴く、ということが、私たちの生きていく行程の中で、如何に大きな糧であることか。きっと、実感していただけるものと思います。ピアノのソロも。バックハウスの貴重な演奏記録です。

ぜひ、聞いていただきたく存じます。

開催：2017年 9月3日(日)
 時間：午後2時30分(開場2時)
 会費：500円

かめおか桂ホール

〒621-0855
 亀岡市中矢田町岸ノ上7の1
 Tel/Fax 0771-22-9970
<http://kameoka-katsura.com>
 問合せ：桂 (Tel/Fax 0771-22-4846)

